

平成 24 年度科学技術戦略推進費

科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進作業部会における審査結果

提案プロジェクト名	提案団体名	総括責任者名	提案プロジェクトの概要	採択コメント
e-アジア国際シンポジウム 2012 (The e-ASIA International Symposium 2012)	一般財団法人 武田計測先端知財団	理事長 武田 郁夫	<p>アジア各国の科学技術関係者を招へいし、e-ASIA 構想を中心とした科学技術の共同研究や人材育成について議論し、各国参加者の域内連携の在り方についての理解を深めると共に、一般に公開するシンポジウムを通じ域内連携に対する広い社会的合意形成を目的とする。1 日目に、科学技術関係者によるワークショップ (WS) を開催し、e-アジア国際シンポ 2011 で議論となった共同人材育成や共同研究の課題についてその後の進展を報告し解決策について議論を行い、域内連携に向けて政策提言を目指す。2 日目は、一般公開の国際シンポジウムを開催し、WS で行われた議論を基に WS 参加者と聴衆を交えたパネルディスカッションを行う。</p>	<p>本提案は、アジア各国の科学技術関係者を招へいし、東アジア・サイエンス&イノベーション・エリア構想を中心とする科学技術の共同研究や人材育成について議論し、各国参加者の域内連携の在り方についての理解を深めるとともに、一般に公開するシンポジウムを通じ域内連携に対する広い社会的合意形成を目指す取組である。</p> <p>昨年度の成果を踏まえた本提案は、アジア地域での人材育成や共同研究に関して、着実に議論を展開して信頼の醸成につなげる取組として評価できる。なお、本年度の実施に当たっては、昨年度の成果を踏まえて広範なテーマの中で焦点を明確にし、討議内容をより具体的にするとともにアクションプランの作成を行い、日本のイニシアチブが十分に発揮できるよう期待する。また、参画メンバーに大学以外の関係者や各国の産業人をより多く加える工夫も期待する。</p>
宇宙開発利用の持続的発展のための“宇宙状況認識 (Space Situational Awareness : SSA)”に関する国際シンポジウム	財団法人 日本宇宙フォーラム	理事長 間宮 馨	<p>昨年度、本制度を活用して、SSA 問題への対処において先行する欧米の政策レベルのトップを招待し情報収集、情報交換の場を設定し、所期の目的を達成することができた。今年度は、議論を更に深化させるために、「透明性・信頼性醸成措置」の観点から、国際協力合意に向けた議論を行うことを目的として国際集會を企画する。特にアジアからも SSA 活動が不透明な衛星破壊実験を行った中国、近年宇宙の軍事利用に傾斜しつつあるインド、並びに新興国である韓国等の代表を招待して、日本のイニシアティブで、欧米諸国と共に、宇宙開発利用の長期持続性確保のために、真の国際協力の可能性を追求することを目標として、今年度の国際集會を開催する。</p>	<p>本提案は、宇宙開発利用を持続的に発展させるため、欧米及びアジアから官民の要人の参加を得て国際集會を開催し、幅広い宇宙活動に伴い発生する問題に係る状況認識を深め、透明性・信頼性の醸成措置の確立を目指す取組である。</p> <p>昨年度は、スペースデブリ問題の解決に向けて我が国がイニシアチブをとり、その発展を目指す取組として大きな意義が認められた。本年度の取組は、昨年度の実績に基づき、関係国間の透明性の向上と信頼醸成の対話を推進するものとして評価できる。本年度の実施に当たっては、昨年度に対象としていた欧米諸国から範囲を広げ、近年の宇宙活動が活発なアジア地域（中国・韓国・インド等）から適切な参加が得られること、我が国の位置づけの明確化及び関係国間の相互理解の深まりが図られること、今後の科学技術外交に資する具体的な成果の創出が行われること等を期待する。</p>

提案プロジェクト名	提案団体名	総括責任者名	提案プロジェクトの概要	採択コメント
International Symposium on Sustainability Science: Towards a Mature and Sustainable Society	一般社団法人 サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム	理事長 小宮山 宏	日本においてサステナビリティ学は 2005 年に東京大学内に設立された大学間ネットワーク型拠点であるサステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) が創設した学術体系であり、現在、国内の大学ネットワークは一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアムが担っている。日本はサステナビリティ学の創生期からのリーダーとして世界で同分野をリードしている。本会議は国際的な同分野に関する教育と産学連携を軸として、国際的に著名な学者や産業界の指導者達をシンポジウムに招聘し、我が国の同学に携わる研究者や産業界の経営者らと会合を行う。この会議を通し、サステナビリティ学に関する国際的な産学連携を推進する。	本提案は、俯瞰的・統合的アプローチによる持続型社会の構築を目指すサステナビリティ学について、国内外の企業、大学、研究機関の代表的リーダーとの国際対話を通じて、同学の概念を内包したビジネスモデルの構築及び次世代を担う人材育成を目指す取組であり、同時に、創生期からその発展を牽引してきた「サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)」を中心に、我が国のイニシアチブの継続及び確立を図るなど、科学技術外交に寄与する取組として評価できる。また、サステナビリティ学は今後益々重要となる分野であり、我が国から科学技術に関する新たな方向づけを国際的に発信する意義は大きい。実施に当たっては、本取組が実施する知的交流を科学技術外交へと、より効果的に展開できるように、その運営方法を検討するとともに、目標の明確化、具体的な成果の創出等が行われることを期待する。
STS フォーラム (Science and Technology in Society forum)	特定非営利活動法人 STS フォーラム	理事長 尾身 幸次	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第9回 STS 年次総会及び特別会合 100 以上の国等から内外計 1,000 人以上の政治家・経営者・政策 担当者・学者など幅広い分野の人々が集まり開催される。 テーマ: 科学技術の光と影 2. ワシントン会議・欧州会議 理事会・評議員会の開催 3. 各国個別会合 世界各国において、テーマ・内容についての議論と、京都会議への招聘 	<p>本提案は、科学技術の発展に伴って生ずる光と影の両側面を念頭に、科学技術の発展に資する共通の価値観確立を目指し、世界の幅広い分野の人々による議論を進め、人類の未来に貢献しようとする重要な取組である。</p> <p>科学技術を専門家だけに委ねるのではなく、幅広く多数の国々の関係者によって議論を進めようとする構想は卓抜している。政策対話に向けて複数の重要なテーマを対象に議論が行われることにより、科学技術全般に及ぶ成果が期待できる。また、同時に開催する会議として、出席する各国要人による大臣会合、アカデミー会員会合、大学学長会合、研究機関長会議などがあり、多くの波及効果が期待できる。本提案は、「ダボス会議」の科学技術版として世界に認められてきており、我が国がリーダーシップを発揮できる良い機会として、これまでの実績を踏まえて高く評価できる取組でもある。なお、本年度実施に当たっては、この優れた取組が継続して発展するための仕組み作りを進めるとともに、成果を広く国民に周知することを期待する。</p>